

# Osaka Metro Group

2021年度（2022年3月期）決算



2022年5月26日

# 1 - (1) 2021年度 連結損益計算書 (総括)

2021年度は、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、鉄道の運輸収入などが回復し、増収増益。厳しい事業環境の中、一昨年から引き締まった経営施策の一環として取り組んでいる営業費用の削減に一層努めたことにより、黒字化を達成。

(単位：億円)

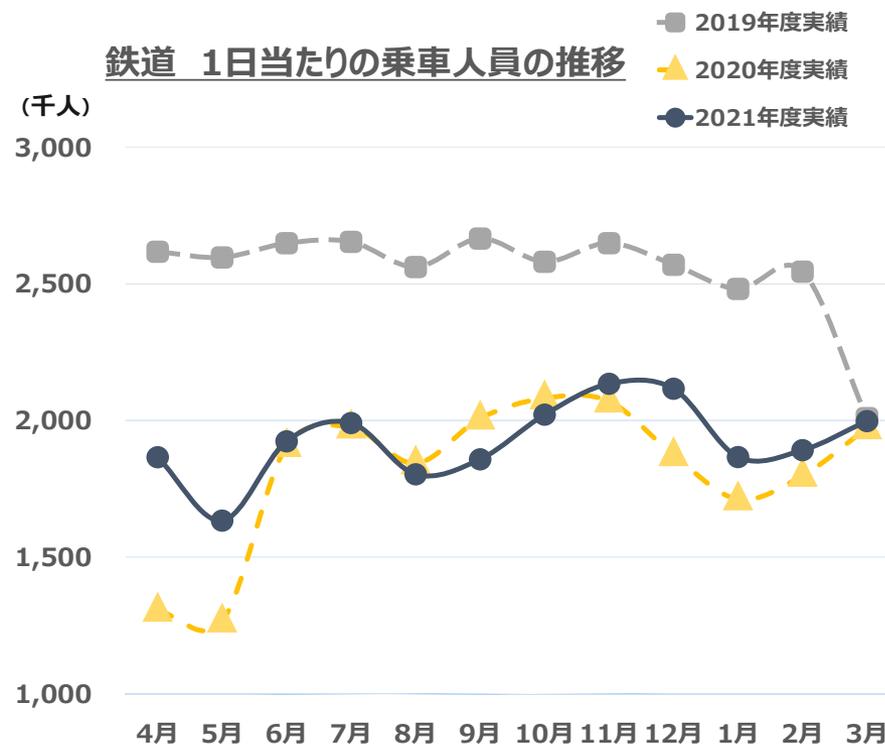
	2021年度 実績	2020年度 実績	増減		2021年度 見通し (12月公表)	増減	
営業収益	1,401	1,338	+63	(+4.7%)	1,434	▲33	(▲2.3%)
営業費用	1,362	1,426	▲65	(▲4.5%)	1,409	▲47	(▲3.4%)
営業利益又は営業損失(▲)	39	▲88	+128	(-)	25	+14	(+57.2%)
営業外損益	7	4	+2				
経常利益又は経常損失(▲)	46	▲84	+130	(-)			
特別利益	60	44	+16				
特別損失	24	27	▲3				
法人税等	31	▲21	+53	(-)			
親会社株主に帰属する 当期純利益又は純損失(▲)	49	▲43	+91	(-)	36	+13	(+34.9%)

# 1 - (2) 鉄道事業の乗車人員と運輸収入の推移

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が複数回発動され、その度に、乗車人員は増減を繰り返した。年間乗車人員は38百万人（+5.6%）、運輸収入で63億円（+5.9%）の増加となったが、新型コロナウイルス感染症前に比べると、約75%の水準（定期86%、定期外70%）にとどまった。

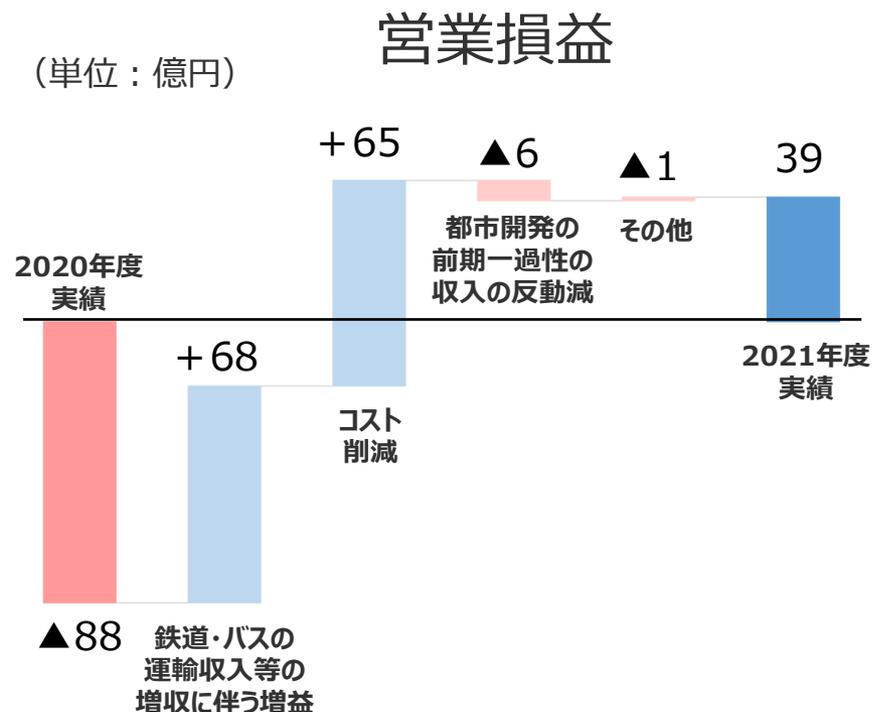
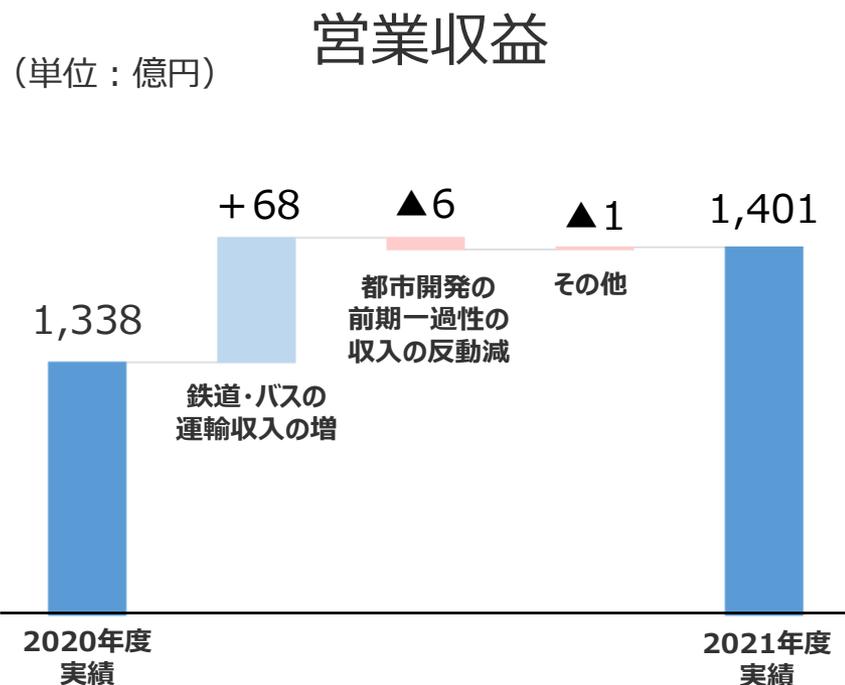
(単位：千人、億円)

		2021年度実績	2020年度実績	増減
乗車人員	合計	702,676	665,148	+37,528 (+5.6%)
	定期	272,837	265,659	+7,178 (+2.7%)
	定期外	429,839	399,489	+30,350 (+7.6%)
運輸収入	合計	1,128	1,065	+63 (+5.9%)
	定期	330	325	+5 (+1.6%)
	定期外	798	741	+58 (+7.8%)



# 1 - (3) 2021年度 営業収益・営業損益の増減要因 (対 前年度)

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入の増加などが貢献し、63億円の増収。  
 営業損益は、営業収益の改善に加え、業務の合理化・効率化による人件費の圧縮や外部委託の見直し、省エネ化などの引き締まった経営の推進により、128億円の増益。



# 1 - (4) 連結損益計算書 四半期推移

## 〔2021年度第3四半期対比〕

第4四半期は、新型コロナウイルス感染症の第6波の影響もあり、鉄道では乗車人員が10.2%減少。鉄道・バスの運輸収入の減少などにより減収、コスト削減の上積みに取り組むも、期末の修繕費の増もあり減益。

(単位：億円)

	2020年度					2021年度					4Q-3Q 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	
営業収益	271	361	368	338	1,338	318	348	382	353	1,401	▲29
営業損益	▲62	9	16	▲51	▲88	▲5	7	46	▲9	39	▲55
経常損益	▲60	8	19	▲51	▲84	▲2	7	49	▲8	46	▲58
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は純損失(▲)	▲39	3	10	▲17	▲43	0	7	33	8	49	▲24

# 1 - (5) 2021年度 セグメント別の状況（総括）

交通事業は、コロナ影響を受けたものの、鉄道・バスともに前年に比べて回復し、増収増益。マーケティング事業の広告は、企業広告の出稿減少などにより、減収減益。流通では、駅ナカの新店舗オープンなどがあったものの、地下街休業による影響を受け、減収減益。都市開発事業は、前期一過性の収入の反動減により、減収減益。

(単位：億円)

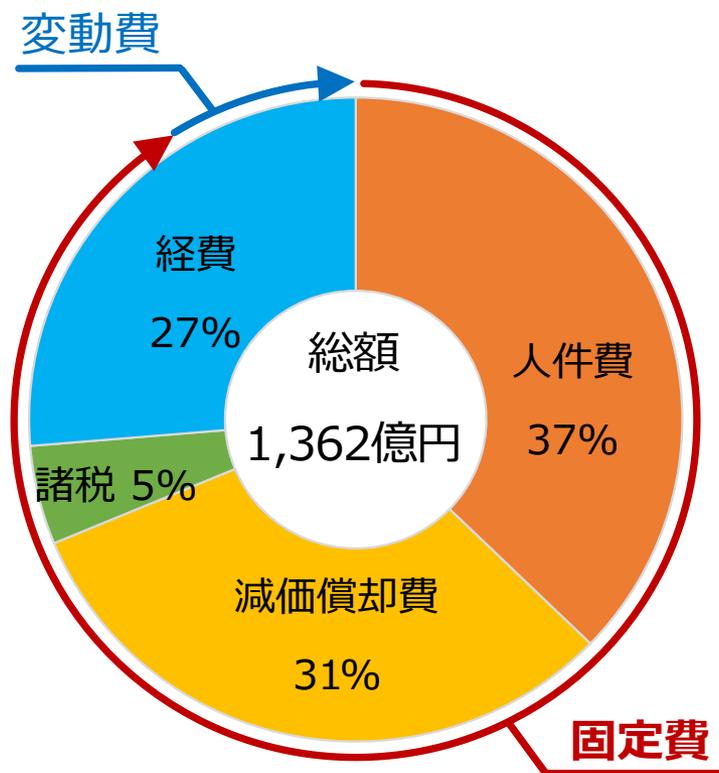
	2021年度 実績		2020年度 実績		増減			
	営業収益	営業損益	営業収益	営業損益	営業収益		営業損益	
合計	1,401	39	1,338	▲88	+63	(+4.7%)	+128	(-)
交通事業	1,305	27	1,230	▲104	+74	(+6.0%)	+131	(-)
鉄道事業	1,192	32	1,128	▲86	+64	(+5.7%)	+118	(-)
バス事業	112	▲5	102	▲18	+10	(+10.0%)	+13	(-)
マーケティング事業	130	4	133	6	▲3	(▲1.9%)	▲3	(▲41.5%)
広告事業	30	5	32	6	▲2	(▲4.8%)	▲1	(▲16.0%)
流通事業	100	▲1	101	1	▲1	(▲1.0%)	▲2	(-)
都市開発事業	19	6	25	7	▲6	(▲22.9%)	▲1	(▲12.2%)
その他	▲53	2	▲50	2	▲3	(-)	+0	(+9.1%)

※「その他」には、グループ内受託事業および内部取引消去を含みます

# 1 - (6) 営業費用の構造と推移

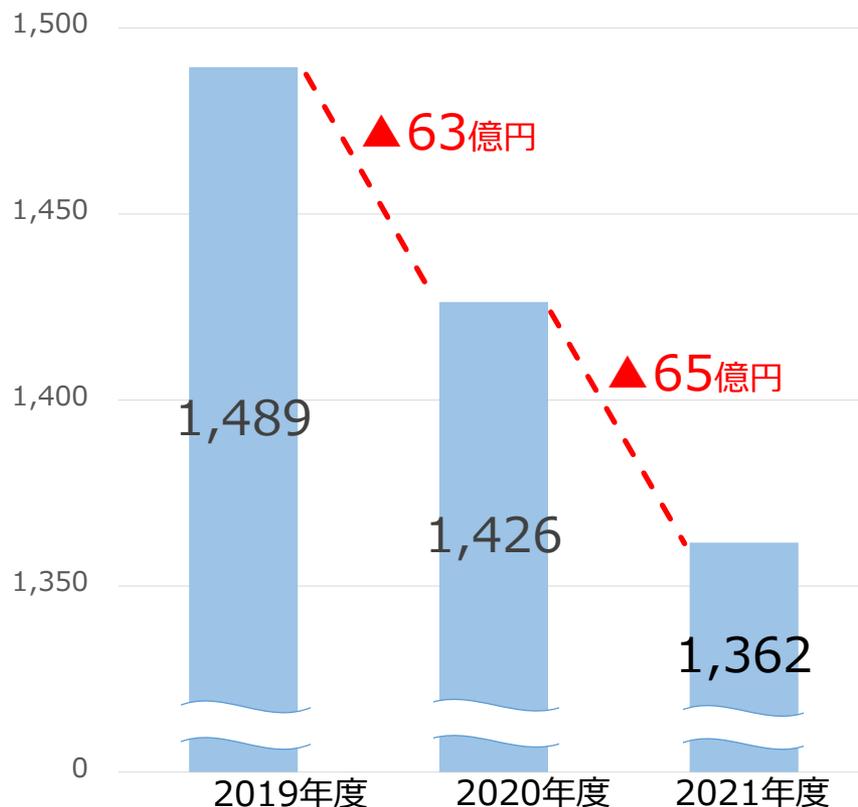
交通事業は、人件費や減価償却費など、固定費の割合が極端に高い収支構造。輸送の安全確保を最優先としながら、その他の固定費を含めたコスト削減を推進。激変した経営環境に対応し、引き締まった経営を継続的に実践。

### ■ 営業費用の構造 (2021年度)



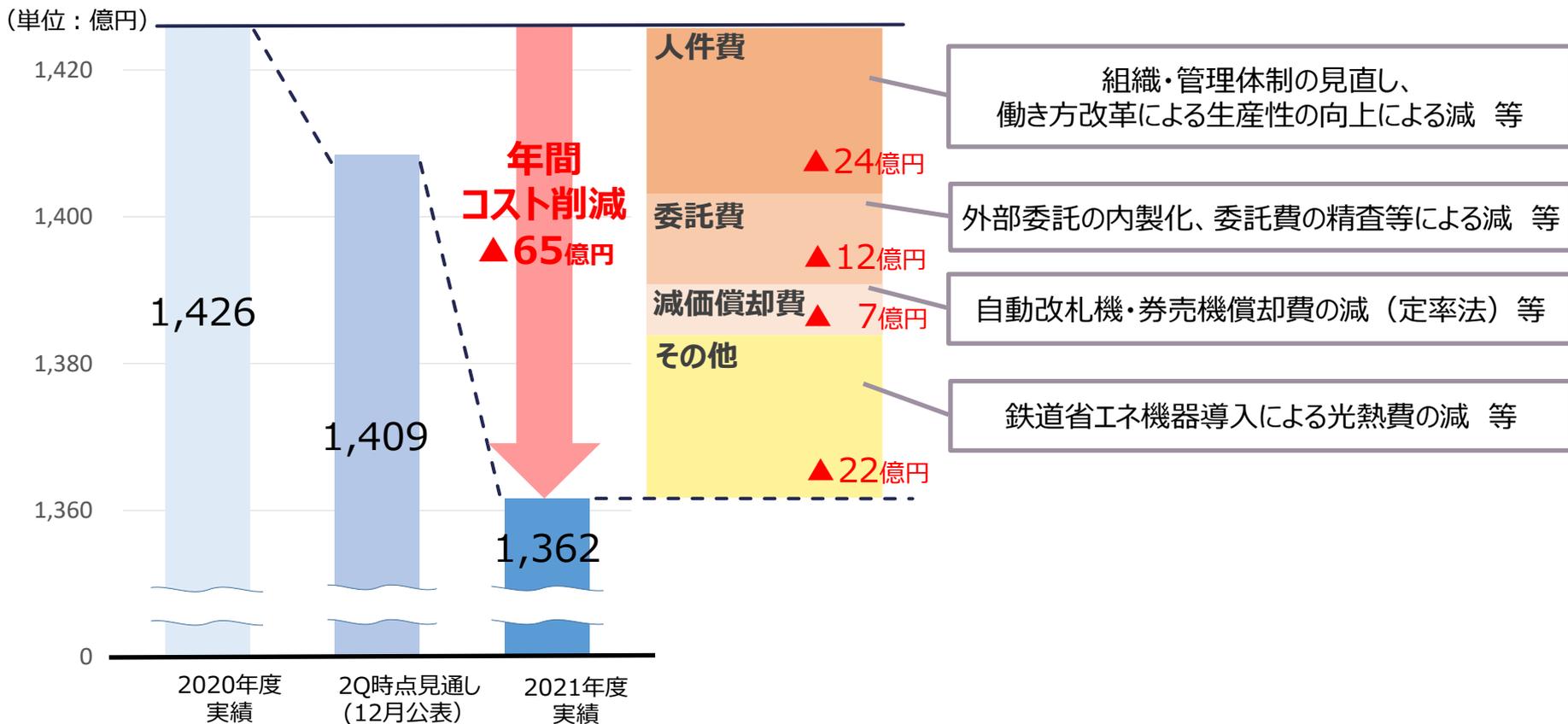
### ■ 営業費用の推移 (3カ年)

(単位：億円)



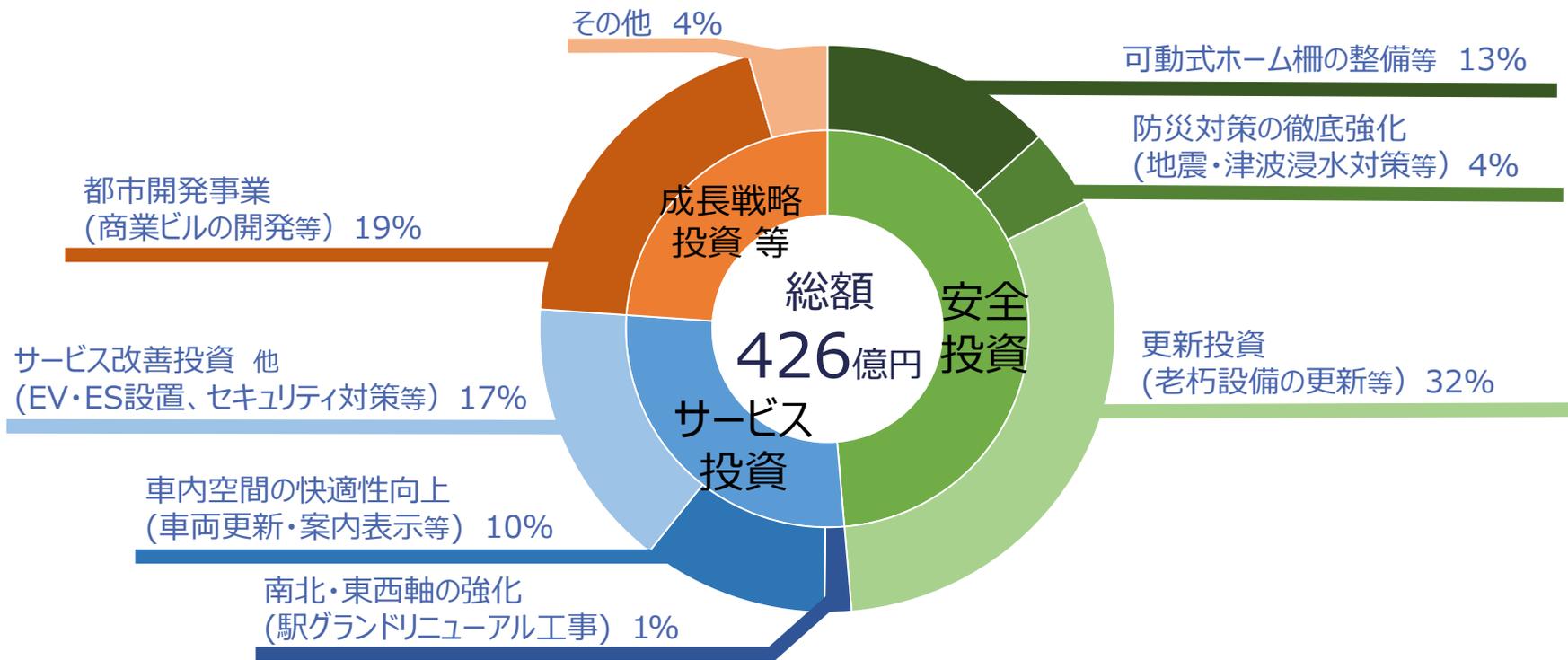
# 1 - (7) コスト削減の取組み（対前年比較）

今年度は、昨年度の取組みから更に深掘りして費用を精査し、対前年比で65億円のコスト削減を達成。安全・安心にかかる支出は計画通り実施しつつ、交通事業における合理化・効率化による運営コストの削減を着実に実施。

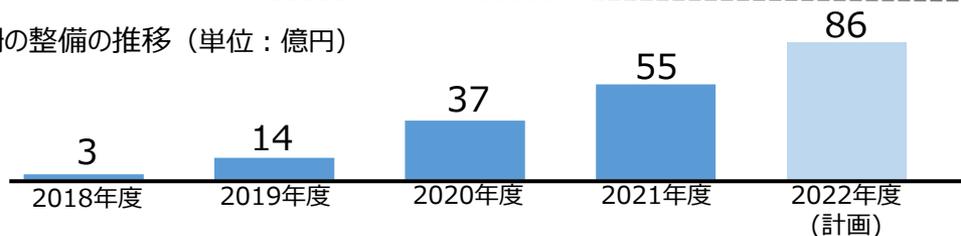


# 1 - (8) 2021年度 投資

厳しい経営環境下でも、ホームの安全対策や大規模自然災害に対する備えなど、安全安心に関する投資は抑制することなく、計画どおりに実施。（可動式ホーム柵は、2025年度末の全駅設置に向け、着実に整備を推進。）サービス改善、成長戦略にも積極的に投資。



【参考】可動式ホーム柵の整備の推移 (単位：億円)



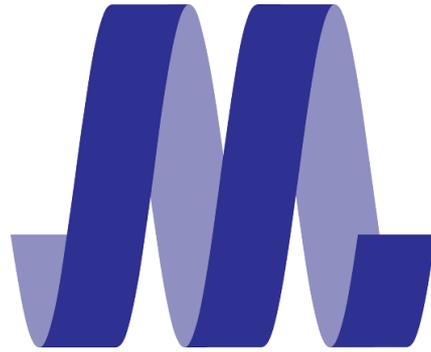
# 1 - (9) 連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書

B/S面では、不透明な経営環境下、ネット有利子負債を削減し、財務健全性を確保。キャッシュフローにおいては、営業CFは、税引前純利益の増加等により増加。投資CFは、安全投資を維持した一方で、設備未払金の増加により、キャッシュ流出が58億円減少。その結果、フリーCFは、228億円のプラス。

(単位：億円)

(単位：億円)

	2021年度末	2020年度末	増減	主な増減要因		2021年度実績	2020年度実績	増減
<b>資産</b>	<b>10,164</b>	<b>10,314</b>	<b>▲150</b>		<b>営業活動による キャッシュフロー</b>	<b>539</b>	<b>229</b>	<b>+310</b>
流動資産	1,080	1,189	▲109	現金及び預金 ▲96 未収法人税等 ▲44				
固定資産	9,084	9,125	▲42	投資 +426 減価償却費 ▲429	<b>投資活動による キャッシュフロー</b>	<b>▲310</b>	<b>▲368</b>	<b>+58</b>
<b>負債</b>	<b>4,863</b>	<b>5,060</b>	<b>▲197</b>					
流動負債	2,152	4,467	▲2,315	短期借入金 ▲1,000 1年内返済予定の長期借入金 ▲1,450	<b>(フリーキャッシュフロー)</b>	228	▲139	+367
固定負債	2,711	593	+2,118	長期借入金 +2,099				
<b>純資産</b>	<b>5,300</b>	<b>5,254</b>	<b>+47</b>		<b>財務活動による キャッシュフロー</b>	<b>▲325</b>	<b>763</b>	<b>▲1,088</b>
現金及び現金同等物	891	988	▲96					
有利子負債	4,202	4,523	▲321	短期借入金 ▲1,000 1年内返済予定の長期借入金 ▲1,450 長期借入金 +2,099	<b>現金及び現金 同等物の増減額</b>	<b>▲96</b>	<b>624</b>	<b>▲720</b>
<b>ネット有利子負債</b>	<b>3,311</b>	<b>3,535</b>	<b>▲225</b>					
<b>自己資本</b>	<b>5,238</b>	<b>5,194</b>	<b>+44</b>		<b>現金及び現金 同等物の期末残高</b>	<b>891</b>	<b>988</b>	<b>▲96</b>



**Osaka Metro  
Group**